【授業科目】在宅看護援助論Ⅱ（展開論）　　Home care Nursing Ⅱ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
春名 誠美、多次 淳一郎、北井 真紀子	３年次 前　期	必　修	２	４６	演　習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ 方法	【授業概要】 本科目では、在宅での看護過程を展開するために必要な思考過程を演習を通して学ぶ。具体的には、国際生活機能分類（ICF）を枠組みとした在宅療養者と家族の情報収集・アセスメント・看護計画立案の一連の過程を紙上事例での演習を通じて学ぶ。また、介入時期や疾患・障害の特徴に応じた在宅看護の実践について既習の知識を活用して考えるとともに、地域包括ケアシステムを構築する意義とその方法について学ぶ。講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材（DVD 等）を用いて行う。また一部の単元でゲストスピーカーによる講義を行う。演習は個人ワークとグループワークを併用して行う。 【課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法】 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。 提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する。
実務経験に関する 授業内容	看護師の実務経験をもつ教員が、在宅看護（主に訪問看護）実践の展開に必要となる知識・技術について、在宅療養の実際に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①国際生活機能分類（ICF）を用いた看護過程の展開方法がわかる。 ②紙上事例を通じて、利用者と家族の健康問題を抽出し、必要な援助を考えることができる。 ③在宅における介入時期別の課題と看護の役割がわかる。 ④在宅療養者に多い疾患や障害に応じた看護の特徴がわかる。 ⑤地域包括ケアシステムを構築するための方法とその中での看護の役割を考えることができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	【課題】 ①在宅看護過程の演習で作成した記録物一式をまとめる（第 1 回指示、第 10 回提出） ②地域・在宅看護における ACP に関する論文（原著論文または研究論文）を読み、生活の場である地域・在宅看護における看護職の役割について自分の考えをまとめる。（第 11 回指示、第 20 回提出） ③提示事例から 1 例を選び、地域包括ケアシステム構築における看護の役割を論じる（第 20 回指示、第 23 回提出） 【事前・事後学習】 事前学習：教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく（各 30 分） 事後学習：同日の学習内容をふりかえり、整理しておく（各30分）
授業計画	第1回 オリエンテーション、 在宅看護過程とケアマネジメントの意義と目的　【課題①指示】　春名・多次 第2-10回　在宅看護過程の展開　2.-4.北井 2. 看護過程講義①　情報収集の方法とポイント　演習オリエンテーション　5.-10. 3. 看護過程講義②　関連図・アセスメント・目標の立て方　北井・春名・ 4. 看護過程講義③　目標・計画・評価　多次 5. 看護過程演習①　アセスメント（GW） 6. 看護過程演習②　アセスメント（GW） 7. 看護過程演習③　看護計画立案（GW） 8. 看護過程演習④　看護計画立案（GW） 9. 看護過程演習⑤　看護計画発表会 10. 看護過程演習⑥　看護計画発表会　【課題①提出】 第11-20回　対象の特性に応じた在宅看護の実践 11. 体調を整える看護　在宅で暮らす視点を考える　【課題②指示】　11.-20. 12. 対象別在宅看護①　医療依存度の高い療養者の看護（TPPV, HPN）　春名 13. 対象別在宅看護②　生活習慣病とともに暮らす人を支える(1) 14. 対象別在宅看護②　生活習慣病とともに暮らす人を支える(2) 15. 対象別在宅看護③　難病とともに暮らす人を支える(1) 16. 対象別在宅看護③　難病とともに暮らす人を支える(2)　ゲスト(訪問看護師) 17. 対象別在宅看護④　End-of-life期を生きる人を支える(1) 18. 対象別在宅看護④　End-of-life期を生きる人を支える(2) 19. 対象別在宅看護⑤　病気や障害をもつ子どもと親を支える　【課題②提出】 20. 対象別在宅看護⑤　病気や障害をもつ子どもと親を支える　ゲスト(訪問看護師) 第21-23回　在宅療養者と家族を地域で支えるしくみと看護の役割 21. 災害時に在宅療養者と家族に生じるリスク（GW含む）　【課題③指示】　21.-23 22. 災害に備えるために平時から取り組むリスクマネジメント（GW含む）　多次. 23. 訪問看護ステーション等の危機管理　まとめ　【課題③提出】
評価方法 評価基準	課題 60%（①②③各 20%），演習への参加度・態度 10%，試験 30%で総合的に評価する ただし授業態度が顕著に良くない（長時間の離席、私語、授業に関係のない作業をする等）場合は最大 10 点分の範囲で減点評価する場合がある。
教科書	・河原加代子,他著『系統看護学講座　地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論2』（第6版1刷）医学書院　／　参考書等：講義の中で適宜紹介
学生への 助言等	本科目を通じて、病気や障害を持ちながら地域・在宅で暮らす人々を多角的に捉えることの難しさと奥深さを学んでください。講義・演習での学習は在宅看護実習に直結しますので、常に実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。